

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																													
日本工学院八王子専門学校		昭和62年3月27日		山野 大星		〒 192-0983 (住所) 東京都八王子市片倉町1404番地1他 (電話) 042-637-3111																													
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																													
学校法人片柳学園		昭和31年7月10日		千葉 茂		〒 144-8650 (住所) 東京都大田区西蒲田5丁目23番22号 (電話) 03-3732-1111																													
分野	認定課程名	認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度																													
工業	情報科学専門課程	AIシステム科		令和 2(2020)年度	-	令和 4(2022)年度																													
学科の目的		AIに関する専門的な知識と技術を持ち、ビジネス上の課題に対してAIを用いた解決案を考え・提案できる「AI活用人材」を育成する学科です。変化の著しい社会情勢とICT環境に対応するため、実習環境には最新のクラウド環境を使用します。これら最新技術の構成要素や、データの取り扱いを学び、それを超体験型のアイデアスタイルで授業展開することにより、実践的な課題解決に必要な基礎力を養います。また、オンライン等で実施される企業のインターンシップに参加することを推奨し、社会性を身につけるとともに、職業理解を深め、就職活動に備えます。ITの知識・技術に加え、豊かな発想力と行動力、そしてこれらをビジネスに活かす力、それぞれを「知る」「学ぶ」「使ってみる」「活用する」の4つのフェーズにわけ、2年間という限られた期間の中でバランスよくかつ効率よく学習を進められるようにカリキュラムを構成しました。AIは今後の社会を飛躍的に発展させる大きな可能性をもった分野です。この分野において、AIの可能性と限界を正しく把握し、AIを用いたシステム開発をリードできるよう、厳選したカリキュラム構成をもって人材育成を行います。																																	
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)		【学会発表・受賞】IEEE TOWERS Undergraduate Student Award受賞、農業施設学生会生・若手の会 優秀賞、情報処理学会全国大会学生セッション発表、電子情報通信学会学生ポスターセッション発表 【資格・検定】G検定、ITパスポート 中退率: 2.0%																																	
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技																											
2年	昼間	※単位時間、単位いづれかに記入		1,740 単位時間 単位	1,125 単位時間 単位	120 単位時間 単位	1,770 単位時間 単位	0 単位時間 単位	0 単位時間 単位																										
生徒総定員	生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)		中退率																												
160人	74人		8人		11%		2%																												
就職等の状況		<table border="1"> <tr><td>■卒業者数(C)</td><td>64</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職希望者数(D)</td><td>57</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職者数(E)</td><td>49</td><td>人</td></tr> <tr><td>■地元就職者数(F)</td><td>32</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職率(E/D)</td><td>86</td><td>%</td></tr> <tr><td>■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)</td><td>65</td><td>%</td></tr> <tr><td>■卒業者に占める就職者の割合(E/C)</td><td>77</td><td>%</td></tr> <tr><td>■進学者数</td><td>8</td><td>人</td></tr> <tr><td>■その他</td><td></td><td></td></tr> </table> <p>(令和 5年度卒業者に関する令和6年5月1日時点の情報) ■主な就職先、業界等 (令和5年度卒業生) 株式会社バスコ、アイ・エス・ビー株式会社、トッパンエッジITソリューション、株式会社京王ITソリューション、クラウドエース株式会社、株式会社エイビット、株式会社ハレックス、Avintonジャパン株式会社、株式会社ODNソリューション、株式会社アヴァンティ、株式会社ワンオールシステム、東京工科大学推薦編入、北見工業大学推薦編入、湘南工科大学推薦編入</p>						■卒業者数(C)	64	人	■就職希望者数(D)	57	人	■就職者数(E)	49	人	■地元就職者数(F)	32	人	■就職率(E/D)	86	%	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	65	%	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	77	%	■進学者数	8	人	■その他			
■卒業者数(C)	64	人																																	
■就職希望者数(D)	57	人																																	
■就職者数(E)	49	人																																	
■地元就職者数(F)	32	人																																	
■就職率(E/D)	86	%																																	
■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	65	%																																	
■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	77	%																																	
■進学者数	8	人																																	
■その他																																			
第三者による学校評価		■民間の評価機関等から第三者評価: 有 ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: 特定非営利活動法人 私立専門 受審年月: 平成26年3月 評価結果を掲載したホームページURL																																	
当該学科のホームページURL		https://www.neec.ac.jp/department/it/aisystem/																																	
企業等と連携した実習等の実施状況(A、B)いづれかに記入)		(A: 単位時間による算定) <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>285 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>120 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>60 単位時間</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>285 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>120 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>60 単位時間</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>0 単位時間</td></tr> </table> (B: 単位数による算定) <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>単位</td></tr> </table>						総授業時数	285 単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	120 単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	60 単位時間	うち必修授業時数	285 単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	120 単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	60 単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間	総授業時数	単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位	うち企業等と連携した演習の授業時数	単位	うち必修授業時数	単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位
総授業時数	285 単位時間																																		
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	120 単位時間																																		
うち企業等と連携した演習の授業時数	60 単位時間																																		
うち必修授業時数	285 単位時間																																		
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	120 単位時間																																		
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	60 単位時間																																		
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間																																		
総授業時数	単位																																		
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位																																		
うち企業等と連携した演習の授業時数	単位																																		
うち必修授業時数	単位																																		
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位																																		
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位																																		
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位																																		
教員の属性(専任教員について記入)		<table border="1"> <tr> <td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>4人</td> </tr> </table> 上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数: 4人						① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	1人	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	0人	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	2人	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	1人	計	4人																
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	1人																																		
② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	0人																																		
③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人																																		
④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	2人																																		
⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	1人																																		
計	4人																																		

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

ICTをはじめAI、ロボット技術に関わる企業等へのヒアリングを適時実施し、ものづくりの実務に関する知識・技術を調査してカリキュラムに反映させる。さらに、授業科目のシラバスをもとに科目担当教員と企業講師との間で意見交換を行い、授業内容や評価方法を定める。常に授業内容や方法を検証することにより実践的かつ専門的な職業教育を目指す。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、校長のもとに設置する会議の1つである。校長を委員長とし、学科責任者、学科から委嘱された業界団体及び企業関係者から各3名以上を委員として構成する。

本委員会は、産学連携による学科カリキュラム、本学生に対する講義科目および演習、実習、インターンシップおよび学内または学外研修、進級・卒業審査等に関する事項、自己点検・評価に関する事項、その他、企業・業界団体等が必要とする教育内容について審議する。審議の結果を踏まえ、校長、学科責任者、教育・学生支援部員で検討し次年度のカリキュラム編成へ反映する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
木田 徳彦	一般社団法人ソフトウェア協会 理事	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	①
足海 義雄	株式会社ハレックス 上席事業推進役	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	③
檜山 竹生	株式会社エイビット 代表取締役社長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	③
山野 大星	日本工学院八王子専門学校 校長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	—
倉重 明	日本工学院八王子専門学校 教育・学生支援部 部長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	—
大矢 政男	日本工学院八王子専門学校 カレッジ長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	—
太田 晶	日本工学院八王子専門学校 科長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(9～12月・1～3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和5年10月09日 14:00～16:00

第2回 令和6年03月29日 14:00～16:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

(委員ご意見1) AIシステム科の活動を見ているとDXを実現するための就職を増やしたいという意図があるように感じたが、実際にはSEが多い。日本ではAIとITの区別ができていない人が多い。DXリテラシーが低いと感じる。ユーザーと一緒にシステムを作る人材が社会には必要。技術力、視野の広さが必要になる。実際は尖り過ぎてどちらかが欠けている人材が多い。ヒューマンスキル、コミュニケーションスキルはAIシステム科のポスタープレゼンなどで身につけていそうだが、もっとなにかができるのかという技術力をもっと磨いてアピールしてほしい。資格持っていてもコミュニケーションが難しい専門学校生も多く見られるため、その点AIシステム科は良い。作品をコーディングして実装できるという技術面をもっとアピールすべきだと思う。動くものを目の前で見せることが必要である。

(改善案1) 年生前期より、課題解決の考え方や調査・整理方法と、技術を平行して学び、各学期で1回以上のポスターセッションやデモセッションの機会を設定する。それを学期ごとに繰り返すことにより、進路活動の際にも活かせる活動実績とスキルセットを早期に獲得する。

(委員ご意見2) 会社の仕組み、株主、社会構造について学ぶ授業がもっとあってもよい。社会で生きやすくなる。

(改善案2) ITパスポートの学習範囲を拡張して学ぶとともに、企業見学や、社会活動のロールプレイングの実施を検討。

(委員ご意見3) 会社に入った後の評価は、求めるスキル・知識をレーダーチャートで可視化して評価している。評価者と本人がお互い認識できるようになっている。会社が求める、伸ばしてほしい能力を具体的にしている。入社直後に会社の仕組みは研修で学ぶ。ただし、真に理解できているかは別かもしれない。学生に求めるものは、AIシステム科の研究会などでの発表を継続してほしい。第三者の指摘が入ることが重要である。年2回、新入社員が全社員向け発表がある。入社からなにかが不足していて、なにかが得られたかを語ってもらう。学び方、気づきの方法を知り、発表する機会を学生に設けるとよい。

(改善案3) 現在の発表を継続するとともに、評価の可視化等の仕組みを拡充して学生が成長していける仕組みを検討。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業等との打合せにより、企業等のニーズに沿った実習内容や評価方法を設定し、目標を明確にする。企業等からの派遣講師による実践的な実習・演習を実施後、企業等の派遣講師による評価に基づき、教員が成績評価・単位認定を行う。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

発想法・ビジネス基礎・AIビジネス戦略(株式会社Zenical)においては、ビジネスの現場で活用されている各種手法を最新の生成AIツールも活用しながら学んでいる。授業は、同社代表が講師を勤め、実践的に実習(個人・グループ)を行い、合わせて学生の到達度を確認して評価した。学生は、その他の科目においてもこれらの科目で学んだ発想法等を用いて、課題の調査や整理に活用している。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
ビジネス基礎	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	システム戦略や経営戦略、マネジメント手法などの基礎について学びます。	株式会社Zenical
AIビジネス戦略	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	企業の実例をケーススタディとして学び、AIを利用したビジネスモデルを創造します。	株式会社Zenical
発想法	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	発想力とアイデアをカタチにする方法を学び、デザイン思考を用いたアイデアソンを実施します。	株式会社Zenical
クラウド技術基礎	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	クラウドサービスを利用したサーバーやインフラ環境の構築方法を学びます。	株式会社VC
クラウドサービス実習	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	Google GCP や Amazon AWS などのクラウドサービスを利用する方法を学習します。	株式会社VC

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

講義と実習、演習の精度を高めるため、学科関連企業の協力のもと、企業等連携研修に関する規定における目的に沿い、学科の内容や教員のスキルに合わせた最新の技術力と技能、人間力を修得する。また、学校全体の教員研修を実施または、研修参加教員から情報共有することにより、学生指導力の向上を図り、次年度へのカリキュラムや学科運営に反映させる。企業等連携研修に関する規定に基づいて、学科毎に年間計画を策定し組織的かつ計画的に実施する。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	①最近のキャリアトレンドについて ②DNAサービスCoopel の概要	連携企業等:	株式会社ポジウィル 株式会社ディー・エヌ・エー
期間:	令和5年9月	対象:	ITカレッジ教員
内容:	①ポジウィル様の会社の経営を通じて培ったキャリア形成のノウハウから学生の就職指導に活かせるポイントを教示頂く。 ②Coopelを用いた作業の自動化についてチュートリアルを用いて、有用性を学ぶ。		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	蒲八合同全教職員1日研修会	連携企業等:	富士通FOM
期間:	令和6年3月28日(木)	対象:	全教職員
内容:	「日本工学院で立ち上げる新規学科を考えよう!」をテーマに午前のAI研修や午後の広報研修を踏まえ、設置校や学科を超えたメンバーで議論する。		

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	これからの専門学校教育と教員の役割	連携企業等:	NPO法人 AI教育推進機構
期間:	令和6年9月	対象:	ITカレッジ教員
内容:	これからの専門学校教育と教員の役割についてこれまでの大学の学部創設の経験を交え、ご講話頂く。		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	AWS初級講座	連携企業等:	アマゾン ウェブ サービス ジャパン 株式会社
期間:	令和7年3月	対象:	ITカレッジ教員
内容:	クラウドが全盛を迎える昨今、教育現場でもカリキュラムに組み込んでいく必要がある。ビジネスでも最も大きなシェアを誇るAWSについて、アマゾンから講師を迎え、教員向けの導入教育を実施して頂く予定。		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

専修学校における学校評価ガイドラインに沿っておこなうことを基本とし、自己評価の評価結果について、学校外の関係者による評価を行い、客観性や透明性を高める。

学校関係者評価委員会として卒業生や地域住民、高等学校教諭、専攻分野の関係団体の関係者等で学校関係者評価委員会を設置し、当該専攻分野における関係団体においては、実務に関する知見を生かして、教育目標や教育環境等について評価し、その評価結果を次年度の教育活動の改善の参考とし学校全体の専門性や指導力向上を図る。また、学校関係者への理解促進や連携協力により学校評価による改善策などを通じ、学校運営の改善の参考とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	(1)教育理念・目標
(2)学校運営	(2)学校運営
(3)教育活動	(3)教育活動
(4)学修成果	(4)学修成果
(5)学生支援	(5)学生支援
(6)教育環境	(6)教育環境
(7)学生の受入れ募集	(7)学生の受入れ募集
(8)財務	(8)財務
(9)法令等の遵守	(9)法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	(10)社会貢献・地域貢献
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会会議の中で本校の行った自己点検の評価について
評価委員からの主な意見は次のとおりで、それについての活用(対応)方法は以下のとおりとなります。

- ・学生に選ばれるための施策(新規獲得)と教職員の採用、満足度向上など課題が多い中ではありますが、意見交換や連携などをして多摩地域の就職に強い専門学校と多摩地区で必要とされる企業で魅力を伝え、発展をしていければと思います。
- ・現場の最前線で活躍する地元企業の専門家に講師をお願いし、ターゲットを明確にした授業などを実施してみてもどうでしょうか。
- ・報告内容にe-ラーニングで就職後に役に立つ学内資格の創設と受験勧奨を実施すること、教諭の待遇改善とコンプライアンス順守などがテーマでしたが、業界により職種と担当業務によって必要とされるスキルが違うので、この資格があれば就職に有利というものを一概にお答えすることはできません。弊社では総合職採用としているので、持っている資格によって配属が決まってしまう可能性もあります。業界内の仕事をもっとスペシャリストを必要とする流れになれば良いのですが、今は何でもできる人が重宝されていることも事実です。
- ・教員の待遇改善については、先生のレベル・待遇が上がれば授業の質が上がると想像できますので引き続きこの取り組みを継続していただくことに賛成します。
- ・学生への思いや取り組み、社会のニーズに対応して行こうとされている姿勢に感謝しており、マイナス評価をする要因がございませんでした。
- ・ハラスメントについては組織運営の中で非常に重要な部分であり、時代の流れや環境の変化に対応したコミュニケーション能力が求められると思います。教員と学生となると育ってきている時代背景が全く異なり、価値観や考え方もその時代の影響が根本にあるかと思えます。また職員同士も同様です。貴校ではハラスメント研修を実施しているかと思いますが、それが貴校全体に広まって行けば良いかと思えます。ただハラスメントを重要視し過ぎてしまい、変な勘違いをしたり、萎縮したりして、何でもかんでもハラスメントと訴えてこないような状況にして頂ければと思います。バランスが難しいかと存じます。
- ・コロナ禍がスッキリ明けたと言えない状況ですが、コロナ禍の真っ只中で授業を受けられていた学生と、新入生とモチベーションのズレが今後出てこなければ良いかと思えます。教職員の皆様もコロナ前に戻る回復力が大変ではないかと察します。日本工学院八王子専門学校が第一志望の学校となるよう微力ではございますが、何なりとご相談いただければと思います。
- ・全体的に特記事項については、過去3カ年ぐらいの実績が書かれていければ良いかと思えます。それ以上前のことが書かれていると進捗が止まっているような印象を持ちますので、もし記載するのであれば、改善、実施した結果が書かれていると良いと思えます。
- ・教職員研修は、実施されると思いますがこれからもどうか業務として認めていただけることも合わせてお願いします。しかし自己研鑽という形ですまないようお願いいたします。
- ・保護者は今後も対面、オンラインなどハイブリット式を継続していただければと思います。
- ・毎回ご説明を伺うたびに着実に学校運営を進展されていることに敬意を表したいと思います。殊にコロナ禍における授業のあり方について学生の要望に沿った改革を着実に図っていることは学ぶ側にとってとても有難いことと思われまます。また会議の折にもお話をいただきましたが対面授業とオンライン授業のハイブリッドにおいて如何に学生とのコミュニケーションを取るかについてはご苦労された成果がよくわかりました。ただフィードバックのやりすぎというものは無いかと思えますので更なる取り組みを期待しています。高等教育機関の多くが学生募集に苦慮している昨今、選ばれる学校としての特色づくりに精励されているお話も大いに評価されるべきところと存じます。益々のご発展を期待して次回にうかがえることを楽しみにしております。

以上、学校関係者評価委員会において討議された内容を踏まえ、次の5点について検討し活用する。

1. 社会のニーズに対応するため、新設学科の検討を行う。
2. 第一志望の学校に選ばれるため教育の質の向上を図る。そのため教員の業務負担の軽減、教育研修の実施、研究授業等に取り組んで行く。
3. 企業連携を強化し、地元企業で活躍する実務者に講義を行ってもらい、専門教育の充実を図る。
4. 教職員がコンプライアンスの大切さを理解し、学校ハラスメント防止に徹底した取り組みを行う。
5. 教職員の満足度調査を引き続き実施し、問題点の洗い出しを行い、満足度向上を目指す。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
森 健介	順天堂大学 非常勤講師 (元白梅学園高等学校副校長)	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	学校関連
金子 英明	日本工学院八王子専門学校 校友会会長 (セントラルエンジニアリング株式会社)	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	卒業生/企業等委員
細谷 幸男	八王子商工会議所 専務理事	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	地域関連
山本 哲志	株式会社フジ・メディア・テクノロジー 管理センター 総務部長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
今泉 裕人	一般社団法人コンサートプロモーターズ協会 事務局長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
才丸 大介	株式会社カオルデザイン 取締役 マーケティング戦略室 室長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
矢野 俊宏	株式会社田中建設 取締役 営業本部長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
池田 つぐみ	NPO法人日本ストレッチング協会 理事	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
石川 仁嗣	医療法人社団 健心会 みなみ野循環器病院 事務局長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://www.neec.ac.jp/public/>

公表時期: 令和6年9月30日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

教育目標や教育活動の計画、実績等について、企業や学生とその保護者に対し、必要な情報を提供して十分な説明を行うことにより、学校の指導方針や課題への対応方策等に関し、企業と教職員と学生や保護者との共通理解が深まり、学校が抱える課題・問題等に関する事項についても信頼関係を強めることにつながる。

また、私立学校の定めに基づき「財産目録」「貸借対照表」「収支計算書」「事業報告書」「監事による監査報告」の情報公開を実施している。公開に関する事務は、法人経理部において取扱い、「学校法人片柳学園 財務情報に関する書類閲覧内規」に基づいた運用を実施している。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の現況、教育理念・目的・育成人材像、事業計画
(2) 各学科等の教育	目標の設定、教育方法・評価等、教員名簿
(3) 教職員	教員・教員組織
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職等進路、学外実習・インターンシップ等
(5) 様々な教育活動・教育環境	施設・設備等
(6) 学生の生活支援	中途退学への対応、学生相談
(7) 学生納付金・修学支援	学生生活、学納金
(8) 学校の財務	財務基盤、資金収支計算書、事業活動収支計算書
(9) 学校評価	学校評価、令和4年度の項目別の自己評価表
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://www.neec.ac.jp/public/>

公表時期: 令和6年9月30日

授業科目等の概要

(情報科学専門課程 AIシステム科)																
1	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時間数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			キャリアデザイン1	就職するにあたっての心構えや、自分に合った仕事の見つけ方、実際の就職活動に必要な事柄を学びます。	1・前	30	2	○			○		○		
2	○			AIリテラシー概論	人工知能の発展の歴史や現在の活用事例を知り、AIシステムで実現可能なことを考えていきます。	1・前	30	2	○			○			○	
3			○	データ分析基礎	データ分析に必要な基礎的な数学や統計学を表計算ソフト等を用いて学びます。	1・前	30	1			○	○			○	
4	○			データベース基礎	Webシステムおよびデータ分析で用いるデータベースについて、基礎技術からSQLまで学びます。	1・後	60	2			○	○			○	
5	○			Web技術基礎	HTMLやCSSなどのWebシステムの開発に必要な基礎技術を学びます。	1・前	60	2			○	○			○	
6	○			クラウド技術基礎	クラウドサービスを利用したサーバーやインフラ環境の構築方法を学びます。	1・前	60	2			○	○			○	○
7	○			AIプログラミング基礎	AIシステムを構築する上で必須となる各種プログラミングの基礎を学びます。	1・前	60	2			○	○			○	○
8	○			発想法	発想力とアイデアをカタチにする方法を学び、デザイン思考を用いたアイデアソンを実施します。	1・前	15	1	○			○			○	○
9	○			IoTもの作り実習	センサーやアクチュエーター等の実空間のモノゴトを扱うプログラミングを行います。	1・前	30	1			○	○			○	
10	○			情報セキュリティ	企業の業務システムやコンピュータシステムを安全に利用するために求められる情報セキュリティについて学習します。	1・前	15	1	○			○			○	
11	○			ビジネス基礎	システム戦略や経営戦略、マネジメント手法などの基礎について学びます。	1・後	30	2	○			○			○	○
12			○	コンピュータ・テクノロジー	コンピューターの基礎理論、システム開発技術などテクノロジー分野について学びます。	1・前	60	4	○			○			○	
13	○			アルゴリズムとデータ構造	プログラムでデータを処理する仕組みと多様なデータの特徴を学びます。	1・前	30	2	○			○			○	
14			○	数学・統計学	AIプログラミングに必要な分野に特化して、高校数学の復習と分散や標準偏差などデータ分析に必要な統計学の基礎を学びます。	1・前	30	2		○		○			○	○
15			○	資格対策講座1	各種検定資格の対策を行います。	1・前	30	2	○			○			○	
16			○	特別講座1	講師を招いた特別講義やフォローアップ講座などを行います。	1・前	15	1	○			○			○	
17			○	校外研修1	IT関連の展示会や講習会などに参加して最新の製品や情報に触れます。	1・前	30	1			○		○	○		
18	○			キャリアデザイン2	一般企業の筆記試験対策を行います。特に一般常識、SPI科目の対策を重点的に行います。また面接対策などをしっかり学びます。	1・後	30	2	○			○			○	

(情報科学専門課程 AIシステム科)															
必 修	分類		授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
19	○		AIプログラミング実習	AIシステム構築に必要なとなる機械学習(教師あり学習)をプログラミングにより学びます。	1・後	60	2			○	○		○	○	
20	○		機械学習基礎	機械学習の考え方やテクニックについて最新事例を交えて学びます。	1・後	30	2	○			○			○	
21	○		IoT活用実習	ネットワーク経由でハードウェアを制御する簡易的なプログラムを作成します。また、教師データの作成のため、センサーデバイスの使用法を学び、データ収集を行います。	1・後	30	1			○	○			○	○
22	○		Web開発実習	JavaScriptを使用した実践的なWebシステムを開発します。	1・後	60	2			○	○			○	○
23	○		クラウドサービス実習	Google GCPやAmazon AWSなどのクラウドサービスを利用する方法を学習します。	1・後	60	2			○	○			○	○
24	○		AIプロデュース	AIを活用したモノづくりをプロデュースするために必要なスキルとして、クリティカルシンキング・ロジカルシンキング・ディベートを学びます。	1・後	30	2	○			○			○	○
25	○		ビジネススキル	就職活動に備え、社会人として身につけるべき「身だしなみ」「言葉づかい」「挨拶」「話し方」などのマナーを習得します。	1・前	30	2	○			○			○	
26		○	プレゼンテーション	プレゼンテーションソフト等を用いて、多くの人に効果的に伝える技術を身につけます。	1・前	30	1			○	○			○	
27		○	情報系資格対策講座1	Python 3 エンジニア認定基礎試験、情報処理技術者試験、ベンダー資格などの各種検定試験対策を行います。	1・後	60	4	○			○			○	○
28		○	プロジェクト実習1	他学科・地域・企業と連携したRPA活用等による課題解決や各種コンテストへの出場など、プロジェクト単位の活動を通してチームの役割を学びます。	1・後	60	2			○	○			○	○
29		○	AI系資格対策講座1	G検定、Google GCP認定、Amazon AWS認定などに向けた対策を行います。	1・後	45	3	○			○			○	○
30		○	資格対策講座2	各種検定資格の対策を行います。	1・後	30	2	○			○			○	
31		○	特別講座2	講師を招いた特別講義やフォローアップ講座などを行います。	1・後	15	1	○			○			○	
32		○	校外研修2	IT関連の展示会や講習会などに参加して最新の製品や情報に触れます。	1・後	30	1			○				○	○
33		○	海外研修1	海外のAI・IoT先進地を視察し、現地の文化に触れることでグローバルな感性を身につけます。	1・後	30	1			○				○	○
34		○	インターンシップ1	一定期間企業などの研修生として働き、自分の将来に関連のある職業体験を行います。	1・後	30	1			○				○	○
35		○	インターンシップ2	一定期間企業などの研修生として働き、自分の将来に関連のある職業体験を行います。	1・後	150	5			○				○	○
36		○	スポーツ実習1	さまざまなスポーツを体験し、人間力を高めます。	1・後	30	1			○				○	○

(情報科学専門課程 AIシステム科)															
必 修	分類		授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業 等 と の 連 携
	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
		○	Tokyo P-TECH特別講座	Tokyo P-TECH対象学生の特別講座	1・通	60	4	○			○				
		○	Tokyo P-TECHプロジェクト実習	Tokyo P-TECH対象学生のプロジェクト実習	1・通	60	2			○	○		○		
	○		キャリアデザイン3	求人票の見方、企業訪問の仕方、履歴書の添削や集団面接、個人面接の受け方など就職活動に必要なスキルをしっかりと学びます。	2・前	30	2	○			○		○		
	○		AI・Web実習	AIを利用するWebシステムを実装しながら学びます。	2・前	60	2			○	○		○	○	
	○		AI・クラウド実習	AIのクラウドサービスを利用するシステムを実装しながら学びます。	2・前	60	2			○	○		○	○	
	○		AI・IoT実習	AIを利用するIoTシステムを実装しながら学びます。	2・前	60	2			○	○		○	○	
	○		アイデアソン・ハッカソン演習1	地域や社会の課題を発見し解決するアイデアソンおよびハッカソンを行います。	2・前	30	2	○			○		○	○	○
	○		マーケティング	市場調査における効果的な情報収集の手段や収集した情報の分析手法を身につけます。	2・前	30	2	○			○			○	
		○	情報系資格対策講座2	Python 3 エンジニア認定基礎試験、情報処理技術者試験、ベンダー資格などの各種検定試験対策を行います。	2・前	90	6	○			○		○	○	
		○	プロジェクト実習2	他学科・地域・企業と連携したRPA活用等による課題解決や各種コンテストへの出場など、プロジェクト単位の活動を通してチームの役割を学びます。	2・前	90	3			○	○		○	○	
		○	AI系資格対策講座2	G検定、Google GCP認定、Amazon AWS認定などに向けた対策を行います。	2・前	45	3	○			○			○	
		○	資格対策講座3	各種検定資格の対策を行います。	2・前	30	2	○			○			○	
		○	特別講座3	講師を招いた特別講義やフォローアップ講座などを行います。	2・前	15	1	○			○			○	
		○	校外研修3	IT関連の展示会や講習会などに参加して最新の製品や情報に触れます。	2・前	30	1			○		○	○		
	○		キャリアデザイン4	就職活動に向けた就職支援を行います。また内定先企業へのお礼状の書き方など学びます。	2・後	30	2	○			○		○	○	
	○		卒業制作	在学中に学習したことを生かしてグループごとにテーマを決め、AI活用をテーマに取り組みます。	2・後	180	6			○	○		○	○	
	○		アジャイル開発演習	スクラムなどのアジャイル開発手法を体系的に学びながら卒業制作で実践します。	2・後	60	4		○		○			○	
	○		アイデアソン・ハッカソン演習2	地域や社会の課題を発見し解決するアイデアソンおよびハッカソンを行います。	2・後	30	2	○			○		○	○	○
	○		AIビジネス戦略	企業の実例をケーススタディとして学び、AIを利用したビジネスモデルを創造します。	2・後	30	2	○			○			○	○
	○		外国語	英会話やIT分野の技術英語などを学びます。	2・後	30	2	○			○			○	

(情報科学専門課程 AIシステム科)															
必 修	分類		授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 の 連 携
	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
			○ 情報系資格対策講座3	Python 3 エンジニア認定基礎試験、情報処理技術者試験、ベンダー資格などの各種検定試験対策を行います。	2・後	90	6	○			○		○	○	
			○ プロジェクト実習3	他学科・地域・企業と連携したRPA活用等による課題解決や各種コンテストへの出場など、プロジェクト単位の活動を通してチームの役割を学びます。	2・後	90	3			○	○		○	○	
			○ AI系資格対策講座3	G検定、Google GCP認定、Amazon AWS認定などに向けた対策を行います。	2・後	45	3	○			○			○	
			○ 資格対策講座4	各種検定資格の対策を行います。	2・後	30	2	○			○			○	
			○ 特別講座4	講師を招いた特別講義やフォローアップ講座などを行います。	2・後	15	1	○			○			○	
			○ 校外研修4	IT関連の展示会や講習会などに参加して最新の製品や情報に触れます。	2・後	30	1			○		○	○		
			○ 海外研修2	海外のAI・IoT先進地を視察し、現地の文化に触れることでグローバルな感性を身につけます。	2・後	30	1			○		○	○		
			○ インターンシップ3	一定期間企業などの研修生として働き、自分の将来に関連のある職業体験を行います。	2・後	150	5			○		○	○		
			○ スポーツ実習2	さまざまなスポーツを体験し、人間力を高めます。	2・後	30	1			○		○	○		
合計					65 科目	3015時間 単位(単位時間) 142単位									

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件:	卒業時に必修科目1380時間(64単位)および選択科目360時間(14単位)以上取得し、合計1740時間(78単位)以上取得すること。	1 学年の学期区分	2 期
履修方法:	1年次:「情報系資格対策講座1」または「プロジェクト実習1」のどちらかを、必ず履修(合格)すること。 2年次:「情報系資格対策講座2」または「プロジェクト実習2」のどちらかを、必ず履修(合格)すること。 「情報系資格対策講座3」または「プロジェクト実習3」のどちらかを、必ず履修(合格)すること。	1 学期の授業期間	15 週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。